

どんな職業か

きもの着付指導員は、きもの着付け技術や知識を教え、日本の伝統文化であるきもの素晴らしさや大切さを伝えるために活動している。

かつては、誰でも自分できものを着ることができたが、ライフスタイルの西洋化に伴ってきものを着る機会が減り、自分で着ることができない人が多くなった。

きもの着付指導員は、着付けを教えるだけでなく、呉服店などで、着る人の好みや容姿に似合った和服を見立てたり、お客にアドバイスをして販売するコンサルタントやアドバイザーの役割も果たす。また、人前で着付けを実演したり、きものについて話をしたりする。

有名なきもの着付指導員になると、テレビ出演や講演、原稿の執筆を依頼されることもある。また、舞台やファッションショーの着付け、コーディネート、そのほかスタイリシ的な仕事も行う。

就くには

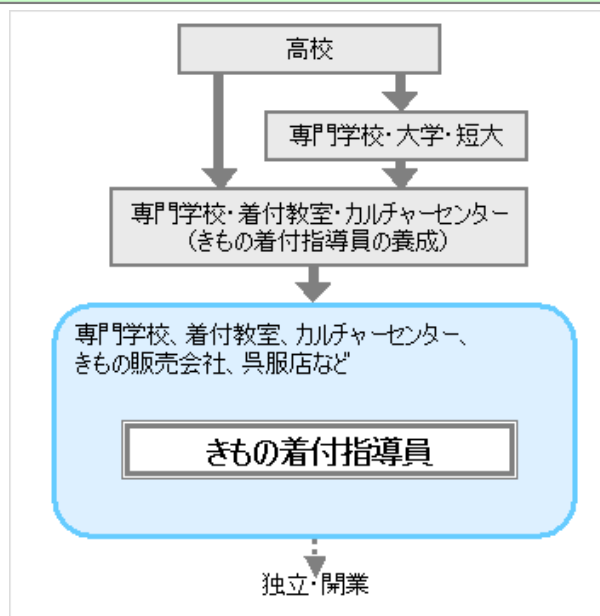
入職に際しては、資格がなくても着付けを教えることはできるものの、きもの着付指導員を育成するためのカリキュラムやレッスンのあるカルチャーセンターや学校、着付教室で、着付けや知識を学び、きもの業界の団体が認定する資格を取得することが就職への第一歩となる。

熟達した技術と豊富な経験が必要とされるため、中高年者の採用も珍しくない。

着付教室の講師の場合、助手や見習として勤務し、指導技術やノウハウを習得してから講師となるのが一般的である。

きもの着方や帯の結び方といった着付けの技術のほかに、きもの歴史や種類、染織、マナー、きものを着る時の小物など、幅広く奥の深い知識が要求される。

また、きものという伝統文化を伝えるという使命感をもって仕事をする必要がある。人にもものを教える立場として、責任感、礼儀作法、きものや帯への愛情、指導者としての心がまえや教え方のスキルなどが求められる。



労働条件の特徴

職場は、全国の着付教室やカルチャーセンター、きもの販売会社や呉服店などであり、そこで講師やきものアドバイザーをする。また、自分で着付教室を開く場合もある。

性別は、ほとんどが女性である。家庭の主婦や独身女性をはじめ、他の職業をもちながら、着付指導の仕事をしている人も多い。

着付教室やカルチャーセンターの講師をする場合は、定められた日時に教え、給与を得る。自分で着付け教室や学校を開く場合は、経営が軌道に乗ればかなりの収入が得られるが、その反面、リスクも伴うため、経営者としての手腕が必要になる。

友人・知人に依頼された時にだけ教えるという、アルバイト的な働き方をしているケースもある。

知名度が上がると、仕事も増え、高収入が得られる。

今後は、きもの着方を知らない年齢層がますます増大する中で、日本固有の伝統文化を普及させて、後世に伝えていく役割をもつきもの着付指導員の需要がなくなることはないと思われる。